

○指導計画

時間	段階	主な学習内容	ねらい
1	オリエンテーション	○授業の流れや授業における約束事の確認 ○バレーボールの特性や学習意義についての理解 ○チーム分け、カードの作成 ○身体ほぐし(ポイント走①、ポイント走②、ポイント走③、コーナー踏み鬼ごっこ)	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の意義や目的、学習方法を理解する。 ・自分の技能レベルを知ることができる。 ・練習や運動をする上でのルールや健康・安全について理解することができる。 ・分担した役割を果たそうとし、作戦等についての話し合いに参加することができる。
2	学習Ⅰ	○バトンスロー ○おしりでキャッチ ○ゴールゲットゲーム ○ゴロゴールゲットゲーム①	<ul style="list-style-type: none"> ・勢い良く腕を振ることができる。 ・ボールの正面に正確に移動することができる。 ・防御と攻撃をうまく役割分担することができる。 ・防御と攻撃をうまく分担し、さらにその間に「攻撃組み立て」を入れることができる。 ・健康・安全に気を配り体調の変化や用具の扱い方、練習場所などの自己や仲間の安全に留意する。
3	学習Ⅱ	○テニスボール投げ(アタックスキル) ○連続壁打ち ○攻守連携ゲーム①	<ul style="list-style-type: none"> ・最終触球場面に用いるアタックを勢いよく打つことができる。 ・自チーム内でのつなぐボールをコントロールして、最終触球場面に有利な形にすることができる。 ・三段攻撃でのラリーが続くようにする。 ・記録ノートを活用しながら仲間の動きを記録し、分析することができる。 ・練習の際に仲間にアドバイスをしたり、課題解決に向けて仲間に助言したりすることができる。 ・健康・安全に気を配り体調の変化や用具の扱い方、練習場所などの自己や仲間の安全に留意する。
4		○アタック練習 ○ワンバウンドパスゲーム ○ゴロゴールゲットゲーム②	
5		○ブロック練習 ○レシーブ・キャッチ&スロー・ブロック(3人1組) ○ボールヒットゲーム ○攻撃組み立てゲーム(記録)	
6			
7			

城南中バレーボールの

研究授業についての成果と課題

- ・工夫したゲーム「攻撃組み立てゲーム」では、三段攻撃を成立させるための一つの技能であるスパイクに重点をおいて進めた。三年生の男子ばかりだったこともあり、意欲もあり高い運動能力を有する生徒が多かったため、スパイクやブロックに焦点を当てた結果、楽しく授業を進められていた。レシーブもトスもキャッチすることについて議論がされたが、目指すゲームの様相に近づくための1時間の授業としては有効であったのではないかと思う。今後、より発展させていくために、レシーブとトスの技能を高めていくゲームを考えていく必要がある。
- ・全体的には、スキル練習で本授業のめあてである、スパイクやブロックの技能を習得できるように工夫された練習が考えられていたため、生徒も確実に技能を習得できていたように感じた。分析シートは、運動量を確保しつつ生徒の作戦タイムでの対話のきっかけになるようなものであったため、的確な改善点がチームの意見として出されていて良かった。

